

園だより 7月

わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。
みえるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存在するからです。

コリントの信徒への手紙Ⅱ 4章 18節

梅雨の訪れが遅かった分、6月初めに保護者の皆様にご協力いただき設置した園庭の大きなプール、例年よりたくさん楽しむことが出来たように思います。その分、真夏の様な暑さの日があり、子どもたちの水分補給や暑さ指数を気に掛けながらの日々でもありました。それでも子どもたちはとっても元気でした。

子どもたちの益々の「やりたい！」がここここで展開され、それぞれの心もちの交わりが感じられた日々となりました。先月号でお伝えをした、周りの様々な想いを受けながら少しずつ少しずつ成長していく心、子どもたち自らの力で育てていく成長を、6月ならではの行事、整えた環境の中で大切に過ごせたひと月に感謝でした。

先週から、来年度の入園希望の方々に向けての入園説明会が始まりました。これから月に1回のペースで開催いたします。江東YMCA幼稚園の思いをお伝えするために日常のエピソードを交えながらお話をさせていただきました。お話ししながら、改めて、子どもたちが豊かな人生を生きるための「生きる力の基礎」を育む保育が幼児期には大切であることを再認識いたしました。幼児教育は生きるための心の根をしっかりと張る(育む)ことなのです。根を張るために大切なこと、それは子どもたち自身が意欲を感じた事(遊び)を周りに認められながら、想いを同じくする仲間たちと交わり、時にぶつかり合いながら思う存分行う(やりとげる)体験・経験が成されることです。また、夢中になり思いきり体を動かし遊ぶことで体は成長します。毎日感じられる子どもたちの「やりたい！やってみたい！」の気持ちが生き活きと動き、そこから生まれ発展させていく遊び、その遊びの展開を大切に受け止めながら、更にその遊びの豊かな広がりへと注がれる保育者たちの想い、その様な溢れる想いで成される遊びの日常がどれほどに大切な育みのときとなることなのでしょう。子どもたちの心もちの一つとして同じではありません。どの様な心の動きも大切に、ゆっくりと1学期最後の7月も過ごして参りたいと願います。

ご理解とご協力を宜しくお願い申し上げます。

園長 駿河 幸子